

「貧困たたき」ネットで拡散

NHK「貧困」報道を巡るネット上の書きこみ

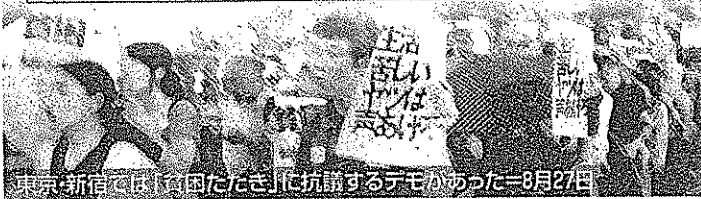
節約すれば
パソコンは買えるはず

報道はやらせた

高価な画材が映ってた

「貧困たたき」への批判

- ・相対的貧困は見えにくく、理解が進んでいない
- ・高校生の人権侵害 ・「貧困観」の違いが背景にある



母子家庭の子TV報道巡り

NHKの子どもの貧困に関する報道をめぐる、登場した高校生への中傷が、インターネットで広まった。「貧困たたき」といわれる風潮の背景には、何かあるのか。

発端は8月18日のNHK「ニュース7」。貧困問題を高校生らが話し合う神奈川県主催のイベントで、母子家庭の女子生徒が語る様子を取り上げた。自宅での取材も交え、パソコンを扱うお金がな

いこと、進学をあきらめかけていることなどを伝えた。ところが放送後、「自宅にアニメグッズがたくさんあり、散財してる」などの指摘が続々とネットに投稿された。女子生徒のものとされる

ツイッターの過去の投稿を元に、「何度も映画を見ている」などと批判し、「貧困」というのはNHKの捏造」と「炎上」した。

片山さつき参院議員(自民)はツイッターに「節約すれば中古のパソコンは十分買えるでしょう」と、NHKに説明を求めたと投稿した。ネットには学校や自宅をさらす書

過去のツイート元に批判・自宅をさらす書き込み

ネットでは、貧困たたきへの抗議も広がり、8月下旬には各地で抗議デモもあった。今回の問題で見えてくるのは、「貧困」を巡る認識の違いだ。飢餓状態にあるような「絶対的貧困」に対し、先進国で問題となっているのが「相対的貧困」。年間の所得が真ん中の人の半分(2012年は約122万円)に満たない家庭を指し、子どもの6人に1人が貧困状態とされる。

「先進国に共通の現象」

装っており、相対的貧困は問題が見えにくいと指摘する。女子生徒が参加したイベントで発言した大学生、相馬美季さん(18)も以前、貧困家庭で育った体験がテレビで取り上げられてネットで批判されたことがある。

「文化的な生活とは何かなど、『貧困観』の違いがあるのは当然で、議論のきっかけになるなら意味がある。でも、今回は個人攻撃で、明らかに行きすぎ」。ただ、報道にも疑問を持った。「こんな高校生がいる、と個人の体験を強調し、相対的貧困の問題が伝わりづらいと感じた。見えにくいからこそ、慎重に伝えて

書きこみも。県によると、実際に家の近くに人が来たり、嫌がらせの手紙が届いたりもしているという。

放送内容に間違いはあったのか。NHKは取材に対し、「食べるものもないというレベルの貧困ではなくても、経済的困窮によって、高校生が希望する進路をあきらめざるをえない現実があることを伝えるもの。放送内容は、すべて事実に基づくものです」とのコメントを出した。

はしかった」

ネットでは以前から、生活保護受給者へのバッシングなどが起きている。英国でも14年、福祉手当受給者のドキュメンタリー番組が「貧困ボルノ」と批判を浴び、出演者がネット上で殺害予告を受けた。

英国人のティナ・バレット上智大准教授(政治学)は「貧困たたき」は格差が拡大する先進国に共通する現象。公的支援を受ける貧困層を攻撃する風潮が強まっている」と指摘。「塾通いや進学ができない相対的貧困は世代を超えて連鎖する深刻な問題。社会が認識を深めることが大切だ」と話す。(仲村和代、伊東和貴)